２．地域調査

（ア）調査目的

本調査は、扶桑町男女共同参画プラン（第二期）策定のため、地域活動における男女共同参画の実態、ニーズ等を把握し、新たな計画策定に向けた基礎資料とすることを目的として実施しました。

（イ）調査対象と回答状況

対象枠	母数	回答数	回答率
駐在員兼自主防災会長	22	18	81.8%
駐在員	21	14	66.7%
自主防災会長	10	6	60.0%
女性消防クラブ会長	40	21	52.5%
計	**93**	**58**	**62.4%**

（ウ）調査結果

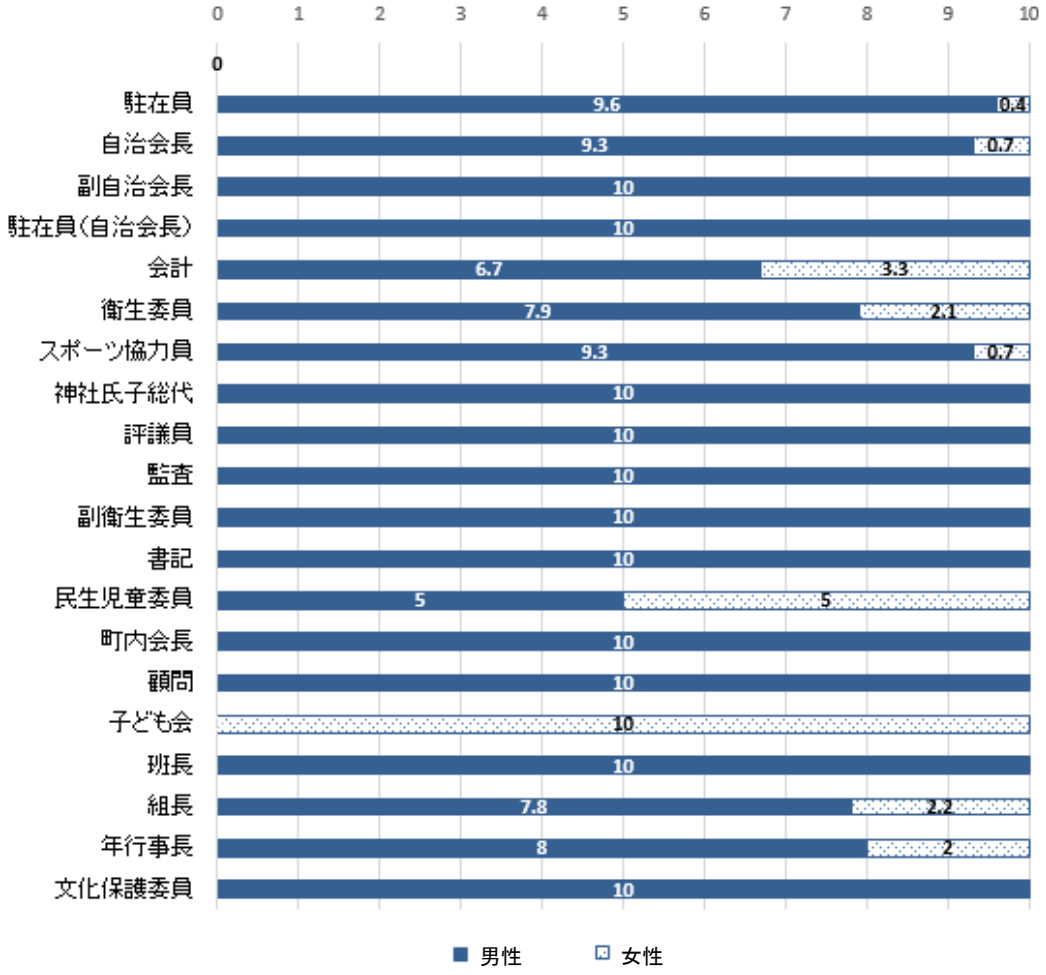
問１－１　地区での役員の男女の就任状況

○駐在員、自治会長の他、多くの地区役員について、男性が大多数を占める役員が多く、過去３年以内も含めて女性が就任したことがない役員も多い状況です。女性就任の割合が２割以上のものとして、割合の多い順に、「子ども会」（10 割）「民生児童委員」（5 割）となり、以下は「会計」「組長」「衛生委員」「年行事長」でいずれも 2～3 割前後の割合となりました。

問 1-１：地区での役員の男女別就任状況（回答数＝29 の内、回答が３以上の役員を抽出）

			男女比		過去に女性がいたか		
（人）	回答数	合計人数	男性	女性	いた	いない	無回答
駐在員	24	26	9.6	0.4	2	20	2
自治会長	14	14	9.3	0.7	3	10	1
副自治会長	6	6	10.0	0.0	1	4	1
駐在員（自治会長）	4	4	10.0	0.0	0	4	0
会計	12	12	6.7	3.3	7	5	0
衛生委員	10	14	7.9	2.1	3	6	1
スポーツ協力員	9	15	9.3	0.7	2	6	1
神社氏子総代	7	16	10.0	0.0	0	7	0
評議員	5	14	10.0	0.0	0	4	1
監査	5	9	10.0	0.0	0	5	0
副衛生委員	4	6	10.0	0.0	0	3	1
書記	4	4	10.0	0.0	1	3	0
民生児童委員	3	4	5.0	5.0	2	1	0
町内会長	3	3	10.0	0.0	0	3	0
顧問	3	5	10.0	0.0	0	3	0
子ども会	3	7	0.0	10.0	3	0	0
班長	3	47	10.0	0.0	3	0	0
組長	3	18	7.8	2.2	2	1	0
年行事長	3	5	8.0	2.0	1	2	0
文化保護委員	3	4	10.0	0.0	0	3	0

問１－１　地区での役員の男女別就任状況



問１－２　地区役員の女性の就任に関わる認識

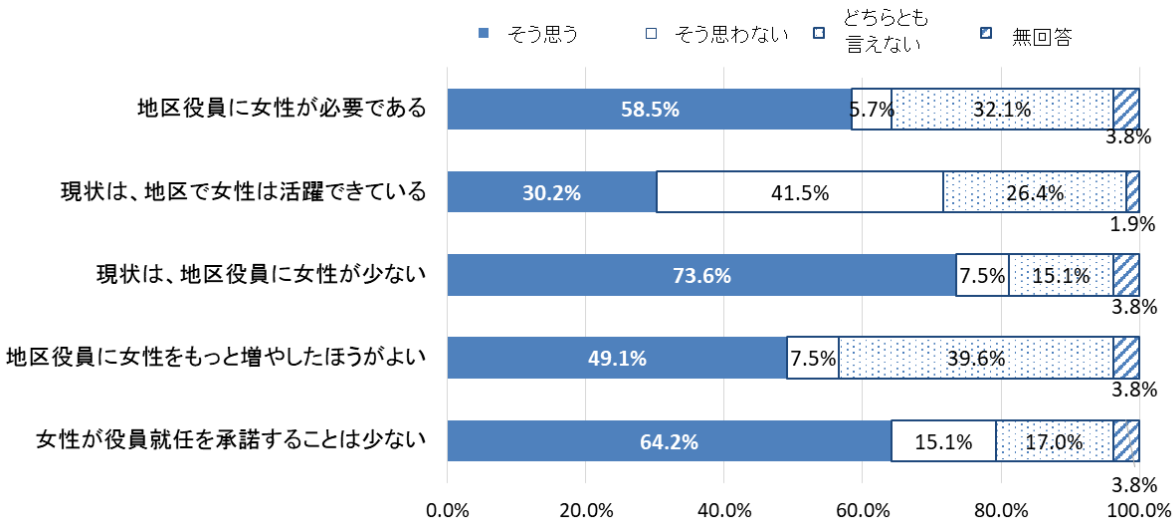
○現状について、「地区役員に女性が少ない」と思う率は 73.6%と高い割合でした。また「地区で女性は活躍できている」と思う率は 30.2%と低く、地区で女性が役員に就任し活躍する割合は低い状況です。

○他方、「地区役員に女性をもっと増やした方がよい」は 49.1%と過半数をやや下回りました。また、「地区役員に女性が必要である」は 58.5%と認識されながらも、「女性が役員を承諾することは少ない」が 64.2%と多くなっています。

問１－２　地区役員の女性の就任に関わる認識（回答数=53）

項目		全体			
		そう思う	思わない	どちらとも言えない	無回答
地区役員に女性が必要である	回答数	31	3	17	2
	割合	58.5%	5.7%	32.1%	3.8%
現状は、地区で女性は活躍できている	回答数	16	22	14	1
	割合	30.2%	41.5%	26.4%	1.9%
現状は、地区役員に女性が少ない	回答数	39	4	8	2
	割合	73.6%	7.5%	15.1%	3.8%
地区役員に女性をもっと増やしたほうがよい	回答数	26	4	21	2
	割合	49.1%	7.5%	39.6%	3.8%
女性が役員就任を承諾することは少ない	回答数	34	8	9	2
	割合	64.2%	15.1%	17.0%	3.8%

問１－２　　地区役員の女性の就任に関わる認識

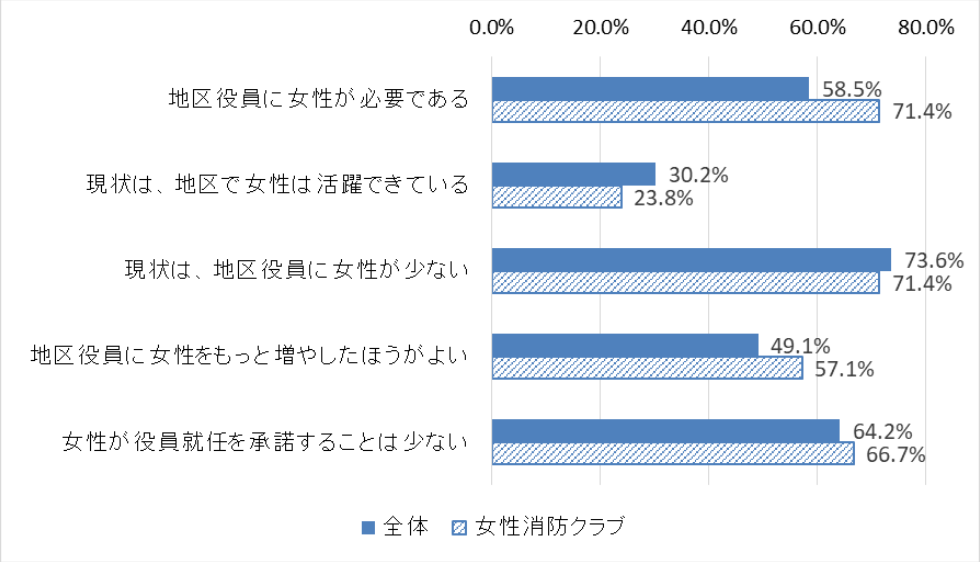


問１－２　地区役員の女性の就任に関わる認識（組織別）

○地区の女性役員の認識について、「全体」と「女性消防クラブ会長」と比較すると、女性消防クラブでは「地区で女性が活躍できている」と思う率はより低く、「地区役員に女性が必要である」「地区役員に女性をもっと増やした方がよい」と思う割合は高くなっています。

○同時に、女性消防クラブの方が「女性が役員を承諾することは少ない」と思う率が高く、実際の役員承認に対しては難しいと感じる割合も高い状況でした。

問 1-2　地区役員の女性の就任に関わる認識（全体と女性との比較）



問１－２　地区役員の女性の就任に関わる認識（組織別）

項目		全体				駐在員・自主防災組織			
		そう思う	思わない	どちらとも言えない	無回答	そう思う	思わない	どちらとも言えない	無回答
地区役員に女性が必要である	割合	58.5%	5.7%	32.1%	3.8%	44.4%	0.0%	44.4%	11.1%
現状は、地区で女性は活躍できている	割合	30.2%	41.5%	26.4%	1.9%	33.3%	38.9%	22.2%	5.6%
現状は、地区役員に女性が少ない	割合	73.6%	7.5%	15.1%	3.8%	66.7%	0.0%	22.2%	11.1%
地区役員に女性をもっと増やしたほうがよい	割合	49.1%	7.5%	39.6%	3.8%	44.4%	5.6%	38.9%	11.1%
女性が役員就任を承諾することは少ない	割合	64.2%	15.1%	17.0%	3.8%	66.7%	11.1%	11.1%	11.1%

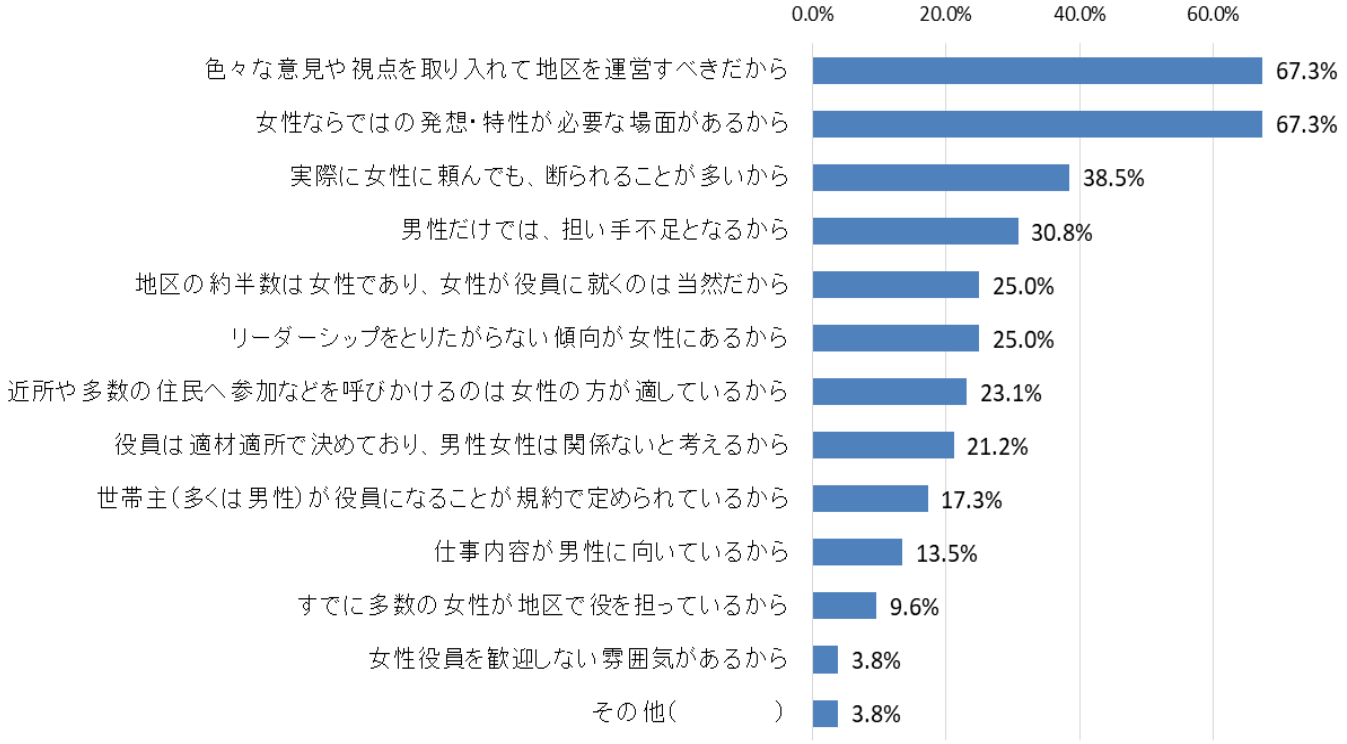
項目		駐在員				女性消防クラブ			
		そう思う	思わない	どちらとも言えない	無回答	そう思う	思わない	どちらとも言えない	無回答
地区役員に女性が必要である	割合	57.1%	7.1%	35.7%	0.0%	71.4%	9.5%	19.0%	0.0%
現状は、地区で女性は活躍できている	割合	35.7%	35.7%	28.6%	0.0%	23.8%	47.6%	28.6%	0.0%
現状は、地区役員に女性が少ない	割合	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	71.4%	9.5%	19.0%	0.0%
地区役員に女性をもっと増やしたほうがよい	割合	42.9%	0.0%	57.1%	0.0%	57.1%	14.3%	28.6%	0.0%
女性が役員就任を承諾することは少ない	割合	57.1%	21.4%	21.4%	0.0%	66.7%	14.3%	19.0%	0.0%

問１－３　問１－２のように答えた理由

○地区の女性役員に関して、「色々な意見や視点を取り入れて地区を運営すべきから」「女性ならではの発想・特性が必要な場面があるから」が共に 67.3%で、地区の運営にあたって多様な視点や発想が必要だという理由が多くみられました。

○「仕事内容が男性に向いているから」「女性役員を歓迎しない雰囲気があるから」を理由に挙げる回答は少ない結果となりました。

問１－３　問１－２のように答えた理由（回答数＝53）



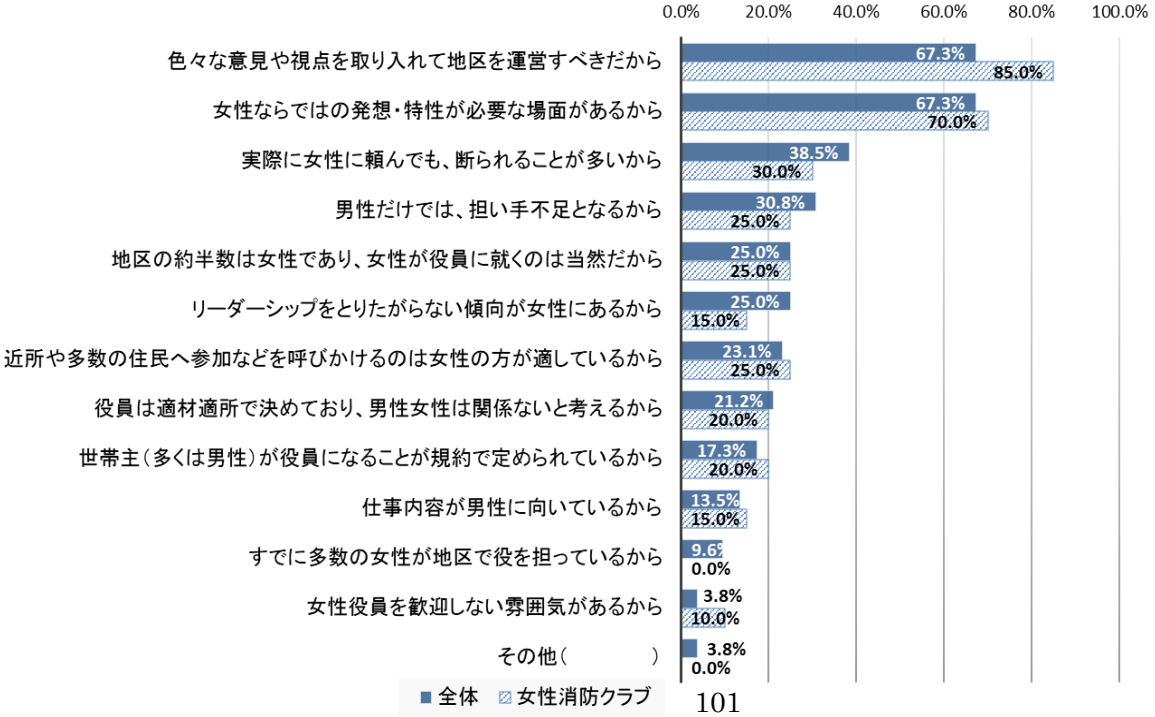
問１－３　問１－２のように答えた理由（組織別）

○組織別では、幾つかの項目で回答割合が異なっています。「駐在員」では「女性ならではの発想・特性が必要な場面があるから」が高く、「駐在員・自主防災組織」では、他に「実際に女性に頼んでも断られることが多いから」「男性だけでは担い手不足になるから」「リーダーシップをとりたがらない傾向が女性にあるから」といった回答も多い傾向がみられました。

○「女性消防クラブ」では、「色々な意見や視点を取り入れて地区を運営すべきだから」の割合が高くなりました。また、割合は 10.0％と高くはないが、「女性役員を歓迎しない雰囲気があるから」と答えた回答は、全て女性消防クラブからでした。

問１－３　問１－２のように答えた理由（組織別）

項目	全体	駐在員	駐在員・自主防災組織	女性消防クラブ
色々な意見や視点を取り入れて地区を運営すべきだから	67.3%	71.4%	44.4%	85.0%
女性ならではの発想・特性が必要な場面があるから	67.3%	85.7%	50.0%	70.0%
実際に女性に頼んでも、断られることが多いから	38.5%	28.6%	55.6%	30.0%
男性だけでは、担い手不足となるから	30.8%	21.4%	44.4%	25.0%
地区の約半数は女性であり、女性が役員に就くのは当然だから	25.0%	28.6%	22.2%	25.0%
リーダーシップをとりたがらない傾向が女性にあるから	25.0%	21.4%	38.9%	15.0%
近所や多数の住民へ参加などを呼びかけるのは女性の方が適しているから	23.1%	14.3%	27.8%	25.0%
役員は適材適所で決めており、男性女性は関係ないと考えるから	21.2%	7.1%	33.3%	20.0%
世帯主（多くは男性）が役員になることが規約で定められているから	17.3%	0.0%	27.8%	20.0%
仕事内容が男性に向いているから	13.5%	14.3%	11.1%	15.0%
すでに多数の女性が地区で役を担っているから	9.6%	21.4%	11.1%	0.0%
女性役員を歓迎しない雰囲気があるから	3.8%	0.0%	0.0%	10.0%
その他（　　）	3.8%	0.0%	11.1%	0.0%



問１－４　　その他、地区役員の女性の就任について感じていること

＜駐在員・自主防災組織＞

・子供や高齢者を見守る活動(ボランティア)が必要と思う。こうした組織活動には女性は必要。

・幅広い意見が出るので、女性も多くなるといいと思います。

・今後の活動として、自治会大役も女性が担えるよう、積極的に取り組んでいきたい。

・自治会そのものが古い体質であり、慣例を変えることは難しいと感じる。今後の取組はきっかけが必要。

・役員名義は世帯主の男性になっていても、実際には奥様が殆どの仕事を行っている場合が多いです。

・組長などに就任され、ご主人と奥様で分担制を執ってみえる方も毎年おみえです。組長会議・組内配布物等は奥様担当が多いです。ご主人は不燃物ゴミの立会等に出席となるケースが多いです。町内の催し物等には女性の手が必要な場合があり、助かっております。

・女性の役員は全く無いに等しい。班長でも世帯主が男性で、寄り合いに代理として女性が出てみえる程度。有能な女性がみえるが、何かと理由をつけて、役職についてもらえない（有能ゆえに理由付けも立派である)。断られることが多い。

・社会全体の仕組みで、男女共同参画(特に家事)が同時に機能する必要がある。男女同一でなく、性差に適った適材適所の役員就任も求められているが、そんな状況は程遠いと感じる。

・業務内容が駐在員業務・町内会コミュニティ業務・区会業務と多忙な上、現場の仕事が多く、女性では大変ではないか。

＜女性消防クラブ＞

●女性の視点が役立つ等の意見

・地区役員は女性が適している。子ども会や PTA 役員等を通して、地域活動を担っており、顔が知られている。世帯主が男性という考え方は時代遅れである。役員はほぼ男性が務める風習には、大きな違和感がある。

・生活していく上で、女性の方が知識があり、便利なことを考える。道路のデコボコも、いつも歩く女性と高齢者の方が気が付く。

・女性ならではの発想が役に立つと思いました。

●女性が実質上支えている等の意見

・地区の行事では、自治会長の妻が参加しなければならない状態。

・まだまだ男性中心と思います。子ども会等、一部女性役員がいますが、活動しているのが女性でも、名簿は男性とか・・・。

・年配の方が多い為、40～50 代の働き盛りの方が地区委員(駐在員・役員・その他)をすることになり、仕事に差し支える時はどうしても女性の手を借りなければならない。それならば女性が最初から役員になっていれば良いのではないかと思う。

・世帯主名で登録なので、ご婦人の出番が少ない。

・当地区は駐在員は必ず男性。それも夫婦健在の方を選んでいる。組長はほぼ女性が出てくる。

・役によっては女性もおられますが、主に男性が中心となって活動をしているように思います。行事では女性もサポートしているので、協力し合いながらの活動で、個人的には良いと感じています。

・実際にまつりの準備など力仕事があるので、男性の力が必要だと思います。地区役員の決め方（私の住む地域は、前任の役員が一軒一軒まわって次の役員をお願いしないといけない）の方が問題があると思います。男女という問題より、負担なく次年度役員の選出方法を見直してほしいと切に願います。

●男性に向いている／女性が担えるような環境づくりが必要等の意見

・現在、当地域の役員になられている方は退職後の男性で、年配者です。その中で女性が互角に活躍するのは勇気がいることです。10～20 年先になるのでは・・・。

・男性の方がリーダーシップをうまくとれる。女性は補助で、うまくいっている気がする。

・地区役員は行事がたくさんあり、女性は家事や子供の世話、仕事等で頻繁に家を空けることが難しいと思います。役員の仕事内容は男性に向いていると思います。

・上記３「地区の半数は女性だから女性が役員に就くのは当然」の意見に関しては、各家庭で互いに就労していない場合、夫婦が平等に家事を役割分担し、当然のように行われていれば該当すると思われる。また、「女性に頼んでも断られることが多い」に関しても、断る理由の調査が必要と思われる。

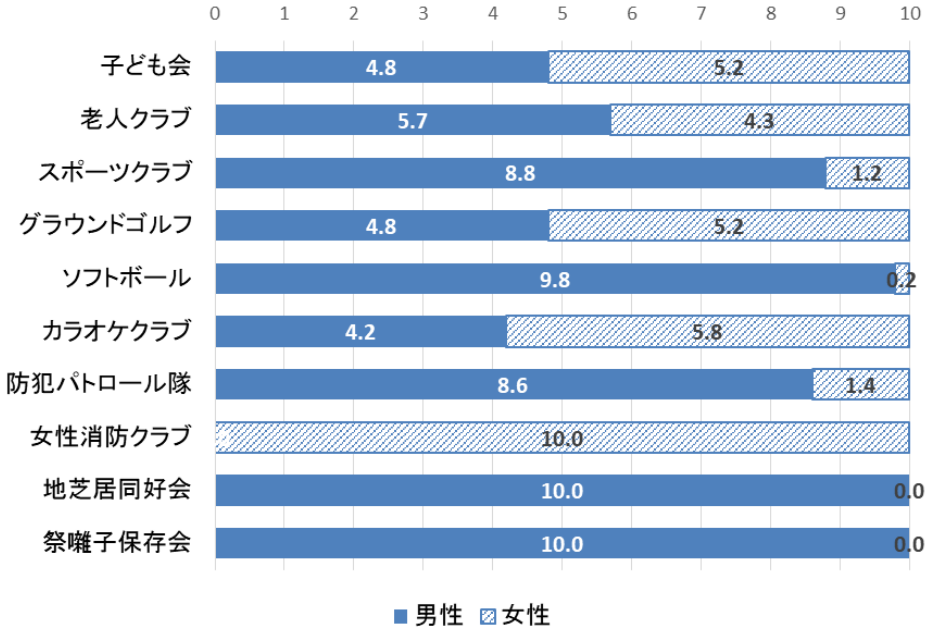
問２－１　地区の関係団体・協力団体について

○会員数において男性・女性の割合が半々に近いものとして「子ども会」「老人クラブ」「グラウンドゴルフ」「カラオケクラブ」がありました。代表者の性別では、「子ども会」は全員女性ですが、その他は男性の割合が多い結果です。

○「地芝居同好会」「祭囃子保存会」は男性比率が 10 割、「防犯パトロール隊」は８割以上でした。

問２－１　地区の関係団体の状況について（回答数 27 の内、回答が２以上のものを掲載）

	回答数	合計人数	会員男女比		代表者性別	
			男性	女性	男性	女性
子ども会	25	493	4.8	5.2	0	25
老人クラブ	18	454	5.7	4.3	17	1
スポーツクラブ	6	218	8.8	1.2	6	0
グラウンドゴルフ	5	93	4.8	5.2	5	0
ソフトボール	5	49	9.8	0.2	5	0
カラオケクラブ	5	31	4.2	5.8	4	1
防犯パトロール隊	4	36	8.6	1.4	4	0
女性消防クラブ	2	2	0.0	10.0	0	2
地芝居同好会	2	3	10.0	0.0	2	0
祭囃子保存会	2	7	10.0	0.0	2	0



問２－２　関係団体・協力団体も含めた地区での活動について、女性が活躍し活性化している例

・子ども会（複数）。年間行事を決め、活動されている。
・子ども会・各小中高等 PTA は意識的に女性がやっています／ほとんど女性の名前になってきている。
・各種ボランティア活動(見守りボランティア・社会福祉協議会関連等)、女性消防協力員
・お年寄りの方に対するケア等は女性ならではと感じます(特に民生委員の場合)。
・地域サロン
・踊り団体として、盆踊り・体育祭等での協力をいただいている。子ども会として女性の方に活躍していただいている。
・地芝居・フラダンス・盆踊り等の活動では、女性が目立った活躍をしておられる。男女共同参画の実情は、むしろ女性により活性化が促進されていると言っても過言ではない。
・ヨガのサークル、カラオケ同好会等、楽しい場にできているように思います。また、この狭い地区という範囲に限られないが、小学校でのボランティアグループ(コロボックルさん)が読み聞かせの活動を、またコープあいちのグループでは食のイベントを開催したりしているようです。シェアサポート和ごころ・メリーママ・ママちょこさんも活躍していると思います。
・お祭り、総会等。
・役員は男性という風習があり、見かけない。

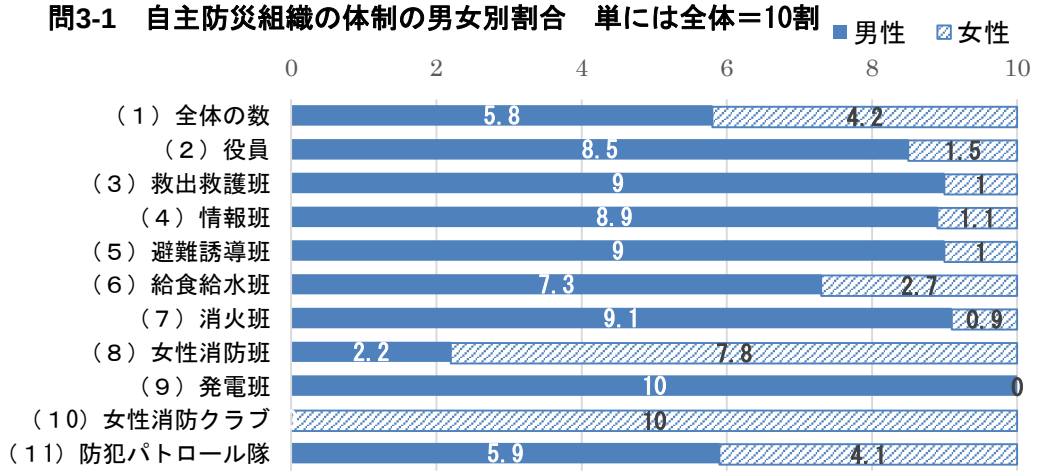
問３－１　自主防災組織の体制について

○自主防災会の会員数は、男女比 5.8：4.2 で、男性が多いものの、女性も４割以上を占めています。
○しかし、役員や各種役割を受け持つ班編成では、「女性消防班」を除くと「給食給水班」は女性が３割弱を占めていますが、他は男性比率が８～９割と極めて高い状況です。

問３－１　自主防災組織の体制について（回答数＝21）　※男女比の単位は、全体＝10 割

			以下、平均値（無記入除く）			男女比	
（人）	回答数	合計人数	男女計	男性	女性	男性	女性
（１）全体の数	20	3595	179.8	104.7	75.1	5.8	4.2
（２）役員	20	105	5.3	4.5	0.8	8.5	1.5
（３）救出救護班	15	62	6.9	6.2	0.7	9.0	1.0
（４）情報班	14	87	9.7	8.6	1.1	8.9	1.1
（５）避難誘導班	14	58	7.3	6.5	0.8	9.0	1.0
（６）給食給水班	15	62	6.9	5.0	1.9	7.3	2.7
（７）消火班	13	80	10.0	9.1	0.9	9.1	0.9
（８）女性消防班	2	9	4.5	1.0	3.5	2.2	7.8
（９）発電班	2	2	2.0	2.0	0.0	10.0	0.0
（１０）初期防災班	1						
（１１）要支援班	1						
（１２）女性消防クラブ	1	2	2.0	0.0	2.0	0.0	10.0
（１３）防犯パトロール隊	1	17	17.0	10.0	7.0	5.9	4.1

問3-1　自主防災組織の体制の男女別割合　単には全体＝10割



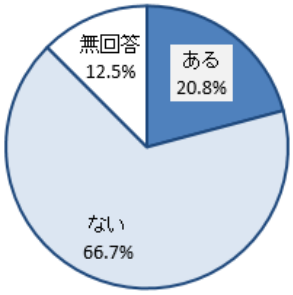
問３－２　男性のみ・女性のみの役割はあるか

○役員や班の就任について「男性のみ／女性のみ」の役割があるのは２割でした。内容的には、男性は「消防・消火班」、女性は「給食給水班」にあたるというものと、「女性消防クラブ」は女性です。

○大半は、役割分担として男女の定めがないものが多い状況です。しかしながら、問３－１の通り、実情は女性が役割につくことが少ないのが現状です。

問３－２　男性のみ・女性のみの役割の有無（回答数＝24）

	ある	ない	無回答
回答数	5	16	3
割合（%）	20.8%	66.7%	12.5%



問３－３　災害時・防災に関して、男女のニーズの違いや参画のあり方を検討したか

○いずれの項目についても、男女のニーズの違いや参画のあり方は「検討した」割合は低い結果です。その中で一番検討した比率が多いのは「防災における人材育成」の項目で 15.6%でした。その他の項目では、いずれも１割に満たない状況です。

問３－３　災害時・防災に関して、男女のニーズの違いや参画のあり方を検討したか（回答数=45）

項目		全体		
		した	していない	その他
備蓄庫に女性が必要とする生活用品を含めること	回答数	1	34	10
	割合	2.2%	75.6%	22.2%
避難所設営で、女性に配慮した環境をつくること（着替え、トイレの位置等）	回答数	2	34	9
	割合	4.4%	75.6%	20.0%
避難所を運営する意志決定の場に女性の視点・意見を取り入れること	回答数	3	32	10
	割合	6.7%	71.1%	22.2%
防災ボランティアやリーダー等の人材育成に女性に積極的に参加してもらうこと	回答数	7	30	8
	割合	15.6%	66.7%	17.8%
その他	回答数	1	0	23
	割合	2.3%	0.0%	52.3%

問３－３　　災害時・防災に関して、男女のニーズの違いや参画のあり方を検討したか（組織別）

○「防災における人材育成」については、「女性消防クラブ」「自主防災組織」では、検討されたという回答が高くなっています

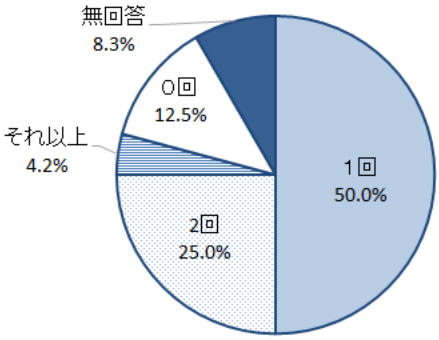
項目		駐在員・自主防災組織			自主防災組織			女性消防クラブ		
		した	していない	その他	した	していない	その他	した	していない	その他
備蓄庫に女性が必要とする生活用品を含めること	回答数	0	15	3	0	6	0	1	13	7
	割合	0.0%	83.3%	16.7%	0.0%	100.0%	0.0%	4.8%	61.9%	33.3%
避難所設営で、女性に配慮した環境をつくること（着替え、トイレの位置等）	回答数	1	14	3	1	5	0	0	15	6
	割合	5.6%	77.8%	16.7%	16.7%	83.3%	0.0%	0.0%	71.4%	28.6%
避難所を運営する意志決定の場に女性の視点・意見を取り入れること	回答数	1	14	3	1	5	0	1	13	7
	割合	5.6%	77.8%	16.7%	16.7%	83.3%	0.0%	4.8%	61.9%	33.3%
防災ボランティアやリーダー等の人材育成に女性に積極的に参加してもらうこと	回答数	1	14	3	2	4	0	4	12	5
	割合	5.6%	77.8%	16.7%	33.3%	66.7%	0.0%	19.0%	57.1%	23.8%

問４－１－１　地区が住民対象に行う防災訓練の実施

○地区が行う防災訓練の実施回数は、年１回が半数、年２回と合わせると 3/4 にのぼっています。他方で「０回」という回答が１割強ありました。

問4－1－1　地区が住民対象に行う防災訓練の実施(回答数=24)

	１回	2回	それ以上	０回	無回答
回答数	12	6	1	3	2
割合（%）	50.0%	25.0%	4.2%	12.5%	8.3%



問４－１－２　地区が住民対象に行う訓練への参加者数

○回答記載があったものにおいて、参加者数の平均は、37.2 人でした。

※注；以下の「参加者の平均値」においては、「男女比」「年代比」の記載があった回答についての平均値を各々記載します。そのため各々の「参加者数の平均値」は異なる数値となっています。

問４－１－２　地区が住民対象に行う訓練への参加者数（回答数＝17）

	参加者合計	平均値
参加者数	632.5	37.2
割合（%）		

問４－１－３　地区が住民対象に行う訓練への参加者数

○訓練への男女の割合は、男性：女性＝5.9： 4.1 と、概ね 6：4 の割合でした。

問４－１－３　地区が住民対象に行う訓練への参加者数（回答数＝16）

	参加者合計	平均値	男性割合	女性割合
参加者数	632.5	34.5	5.9	4.1

問４－１－４　地区が住民対象に行う訓練への参加者数と割合（年代比）

○訓練への年代別の割合は、60 代以上が 6 割以上、40 代～50 代と合わせると 9 割を超えます。10 代以下、20 代～30 代の参加率が低い状況です。

問４－１－４　地区が住民対象に行う訓練への参加者数と割合（年代比）(回答数＝14)

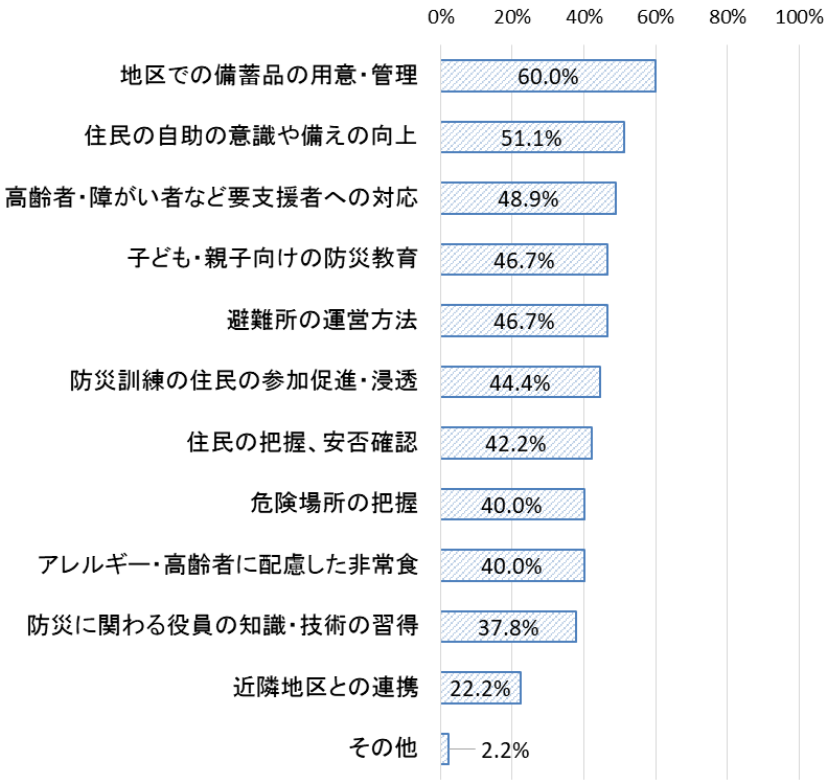
	参加者合計	平均値	10代以下	20～30代	40～50代	60代以上
参加者数	539.5	38.5	0.07	0.71	2.86	6.36

問４－２　もっと女性の視点や力を活かすべきだと思うもの

○最も多かったのは「備蓄品の用意・管理」で 60.0%、続いて「住民の意識の向上」となり、これらは５割以上にのぼりました。

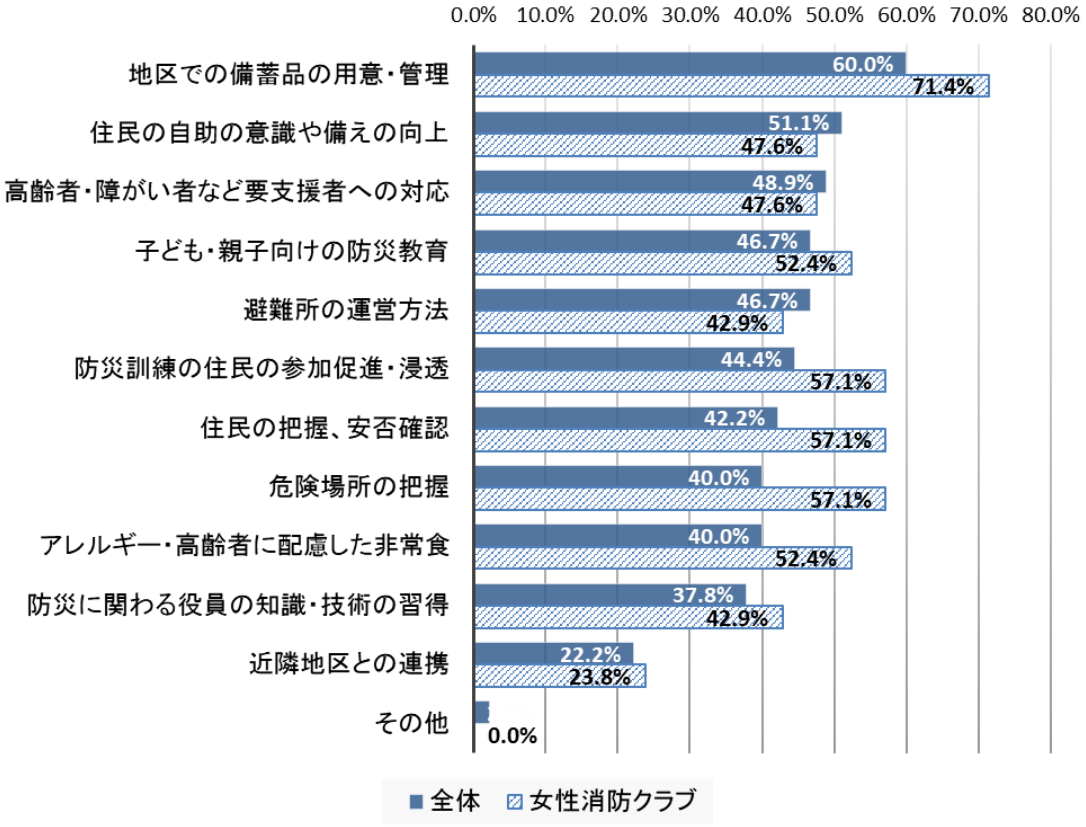
問４－２　もっと女性の視点や力を活かすべきだと思うもの(回答数＝４５)

項目		全体	駐在員・自主防災組織	自主防災組織	女性消防クラブ
地区での備蓄品の用意・管理	回答数	27	9	3	15
	割合	60.0%	50.0%	50.0%	71.4%
住民の自助の意識や備えの向上	回答数	23	8	5	10
	割合	51.1%	44.4%	83.3%	47.6%
高齢者・障がい者など要支援者への対応	回答数	22	9	3	10
	割合	48.9%	50.0%	50.0%	47.6%
子ども・親子向けの防災教育	回答数	21	7	3	11
	割合	46.7%	38.9%	50.0%	52.4%
避難所の運営方法	回答数	21	8	4	9
	割合	46.7%	44.4%	66.7%	42.9%
防災訓練の住民の参加促進・浸透	回答数	20	6	2	12
	割合	44.4%	33.3%	33.3%	57.1%
住民の把握、安否確認	回答数	19	5	2	12
	割合	42.2%	27.8%	33.3%	57.1%
危険場所の把握	回答数	18	4	2	12
	割合	40.0%	22.2%	33.3%	57.1%
アレルギー・高齢者に配慮した非常食	回答数	18	5	2	11
	割合	40.0%	27.8%	33.3%	52.4%
防災に関わる役員の知識・技術の習得	回答数	17	6	2	9
	割合	37.8%	33.3%	33.3%	42.9%
近隣地区との連携	回答数	10	2	3	5
	割合	22.2%	11.1%	50.0%	23.8%
その他	回答数	1	0	1	0
	割合	2.2%	0.0%	16.7%	0.0%



問４－２　もっと女性の視点や力を活かすべきだと思うもの(組織別)

○「女性の視点や力を活かすべきもの」について、「女性消防クラブ」の回答と、それ以外の組織の回答の間に違いがみられます。全体回答よりも、女性消防クラブの比率が高いものとして、「備蓄品の管理」「住民の参加促進」「住民の把握、安否確認」「危険個所の把握」「子ども・親子向けの防災教育」「アレルギー・高齢者に配慮した非常食」と多くの項目がありました。逆に、全体回答より低いものは「住民の自助や蓄えの向上」「避難所の運営方法」ですが、大きな差異ではありませんでした。



問４－３　問４－２で選択した内容について、具体的な役割・活動のイメージ（自由回答）

・上記１「住民の把握、安否確認」について、女性のコミュニケーション能力を活かすと良いと思われる。が、中には噂話や井戸端会議に参加したくない女性もいるので(私もそう)、一概に女性だけ活かされる能力ではないですが・・・。

・３「避難所の運営方法」については、男性・女性・LGBT への配慮をすると尚良いと思います。
上記すべて必要事項と考えます。先ず地区役員全員での勉強会を実施し、一つでも多く把握できたら、災害時の即戦力になると思います。

・近所にどのような人が住んでいるのか把握して、安否確認等が必要だと思います。

・今は高齢者宅が多くなり、近隣に声掛けの訓練をすると、突然の災害時にスムーズに声掛けができるのではと思います。

・現在、毎年行っている訓練は義理で行っているような所がある。もっと住民に向けての訓練が、いざという時に役立つと思う。

・子供・親子向けの防災教育は、女性役員が既存の地域の集会を利用して情報発信・共有すべきである。

・ハザードマップを回覧板に付けて、何回も回す。

問４－４　地区の防災活動、防災訓練について、女性消防クラブが取り組んでいる活動（自由回答）

＜女性消防クラブからの回答＞

●具体的な事例

・防災訓練(丹羽消防署にて)研修等。水防・防災訓練(救護・炊出し・その他)
・炊出し等、食に関係することは女性消防が先頭に立って行動しています。
・年一回、人工呼吸・AED 取扱い・消火訓練等、消火器・AED 人形をお借りして、消防署員様に来ていただき、教えていただきます。40 人くらい参加していただけます。
・消火訓練のみ、女性消防クラブが主で、あとは組長のみの参加。全戸の参加が望ましい。
・10 月に女性防災訓練。
・防災訓練に参加。
・消火栓訓練
・防災訓練・消火訓練

●自主防災会と共に

・自主防災会とともに年二回の防災訓練。救命(AED 取扱い)と防火。
・自主防災会とともに地区の消火栓等の点検。

●あまり主体的な活動をする状況にない

・女性消防クラブが地区の防災チーム等と連携をとるという事例は今までになかったかもしれません。私の情報不足かもしれませんが。
・主体的な活動は、地区の子ども会の会員の子(1～6 年生)に対して、救急救命講習を年一回行っている。これは女性消防クラブの代表は子ども会の役員が毎年交代で担う決まりになっているからです。強制的にやることになっているので、意識・志が低い。
・順番制でいきなり女性消防になり、意見を述べる知識がありません。役場から通知のある場面にのみ参加しているだけの現状です。私自身、後期高齢者です。

問４－５　その他、防災について、男女双方の視点が必要だと思うもの（自由回答）

＜女性消防クラブ以外の組織からの回答＞

・避難場所・トイレ・給食準備
・被災者が男性なら男性、女性なら女性でしかケアしきれないことがあるので、一つの災害発生時でも両方の視点がある方が良いです。
・最近の自然災害は、あらゆる地区で発生しているので、扶桑町においても災害時の避難体制・連絡網を住民がしっかり把握しているか、今後、情報発信が必要。ここでも女性の視点も重要と思われます。
・平日の昼間に災害が起きたら、若い男性は仕事に出ている為、女性の活躍が大いに必要だと思う。しかし女性は関心が薄い。

問５　その他、地区の運営・活動等における女性の参画について感じていること

＜駐在員・自主防災組織＞

・自治会及び役場に関わる要望や申請手続きの際、女性軽視されるケースがあるとのことを聞きますので、広報等で改善を呼び掛けていただけたらと存じます。

・女性が積極的に参加できるような、町としての指導・広報活動が必要と思う。

・町内会・区会・役員会は殆ど土・日曜日にあり、月の休日の半分は行事に参加しなければならない。女性の参画を可能にする為には、例えば、コミュニティ事業のみに参画する方法しかないと思います。

・現在の問題点は町内の高齢化が進み、地区の運営をできる人が少なくなっていることです。したがって、女性も町内の運営に参加せざるを得ない状況です。町内会の高齢化で地区の運営が難しくなるのは差し迫っています。扶桑町としては、どのような対策をお考えでしょうか？

・主婦として、母親として、祖母として、大いに女性の参画は重要と考えます。

＜女性消防クラブ＞

・女性が地区の運営で活躍するようになるのは、とても良いことだと思います。ただ、そのための準備として、男女ともに働く時代になったのにも関わらず、家事(炊事・洗濯・掃除)や子育てについては役割分担している家庭が少ないのでは、と思います。介護に関しては、「女性がやるのが普通」という認識では、女性に「活躍してもらう！」というより「負担を増やす」ということになりかねません。日本の男女格差は世界的にみても大きいです。144 か国中、111 位(2016 年調べ)で先進国中では最下位。数値も残念なことになっていますが、今一度、女性が一週間いなくなったら、どんな社会になってしまうのか、を想定してみてはいかがでしょうか。住民の意識が時代についていけるといいですね。(一部略)

・リーダーとなる人の育成を望みます。

・もっと色々な活動に女性が参加して、いろんな意見交換をして、これからの防災に役立つようにしていきたいです。

・町内会の会合で、女性はお茶出しをする慣習は廃止してほしい。一般的に職場では過去に廃止されている。

・「男性優位社会」であり、この社会が変わらなければ難しい。女性の資格取得、スキルアップ、社会で働きやすい環境を整える等、仕事・子育ての両立ができるような支援。他県を参考にしてほしい。(海外も)

・共同参画に参加して、協力したいと思いますが、何ができるか、はっきりさせてほしい。

・今まで地区の運営・活動等に関心が薄く、今回、女性消防クラブの役を受け、防災訓練・消防クラブ研修会に参加したことで、学ぶことができました。このアンケートにお答えするには勉強不足で具体的にお答えできませんが、防災訓練等、皆が参加できる機会があればと思います。

扶桑町「男女共同参画プラン」策定にあたっての
アンケート調査

アンケートにご協力ください

皆さまには、日頃より扶桑町の行政運営にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

扶桑町では、男女がお互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、男女がともに、その個性と能力を十分に発揮することができる社会をめざし、平成２１年度に「扶桑町男女共同参画プラン」を策定し、さまざまな取り組みを行ってきました。現計画の策定から１０年が経過することから、現在新しい計画策定に向け準備を行っているところです。

このアンケートは、新たな扶桑町男女共同参画プランの策定にあたり、扶桑町の男女共同参画の現状や町民の皆さまのお考えを把握し、よりよい計画策定に向けた基礎資料として活用することを目的としています。

お答えいただいた内容につきましては、統計的に処理をいたしますので、個人が特定されることは、一切ございません。

お忙しいところ恐縮ですが、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成３０年１０月

扶桑町長　千田　勝隆

◆ご記入にあたってのお願い◆

・アンケートの対象者は、町民から無作為に抽出していますので、ご了承ください。
・この調査は無記名式ですので、調査票に名前を記入する必要はありません。
・ご回答は、当てはまる項目の番号を、指定の数だけ〇で囲んでください。
・「その他」の項目を選ばれた場合で、（　）がある設問については（　）の中に具体的にご記入ください。
・**ご記入いただいた調査票は、同封いたしました返信用封筒に入れ、封をして１０月３１日（水）までにご返送ください。（切手は不要です。）**
・このアンケートについてのお問い合わせは、下記までお願いします。

扶桑町総務部　政策調整課　政策調整グループ
電話：０５８７－９３－１１１１内線３１６
ＦＡＸ：０５８７－９３－２０３４

1　男女共同参画について

問１　あなたは、下記の言葉を知っていますか。（①から⑥までそれぞれ１つに○）

	内容（意味）を知っている	聞いたことはある	知らない
①男女共同参画社会	1	2	3
②仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）※	1	2	3
③育児・介護休業法	1	2	3
④ポジティブアクション（積極的改善措置）※	1	2	3
⑤DV（ドメスティック・バイオレンス／配偶者等からの暴力）	1	2	3
⑥LGBT※	1	2	3

※ワーク・ライフ・バランス…一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できることを指す。
※ポジティブアクション…一般的には、社会的・構造的な差別によって不利益を被っている者に対して、一定の範囲で特別の機会を提供することなどにより、実質的な機会均等を実現することを目的として講じる暫定的な措置のこと。
※LGBT…同性が好きな人や、自分の性に違和感を覚える人、または性同一性障害などの人々のこと。「セクシャルマイノリティ」、「性的マイノリティ」、「性的少数者」とも言う。
L（レズビアン）=女性の同性愛者、G（ゲイ）=男性の同性愛者、B（バイセクシャル）=両性愛者、T（トランスジェンダー）=生まれてきたときの法的・社会的性別とは違う性別で生きる人・生きたいと望む人、の頭文字をとって「LGBT」と呼ばれている。

問２　あなたは、次のような分野において、現在、男女が共に対等な立場で協力し合っていると思いますか。（①から⑦までそれぞれ１つに○）

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	対等な立場で協力し合っている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
①　家庭生活の場	1	2	3	4	5	6
②　学校教育の場	1	2	3	4	5	6
③　職場	1	2	3	4	5	6
④　地域活動・社会活動の場	1	2	3	4	5	6
⑤　法律や制度	1	2	3	4	5	6
⑥　社会通念・慣習	1	2	3	4	5	6
⑦　政治	1	2	3	4	5	6

2　家庭生活、育児、介護等について

問３　あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。（○は１つ）

１．同感する　　２．ある程度同感する　　３．どちらともいえない

４．あまり同感しない　　５．同感しない　　６．その他

問４　あなたのご家庭での男女の役割について、現状をお答えください。また、理想をお答えください。（①から⑦でそれぞれ１つに○）

	（１）現実の担い手						（２）理想の担い手					
	すべて女性が担当	主に女性が担当	男女同じ程度	主に男性が担当	すべて男性が担当	該当する人がいない・該当する選択肢がない	すべて女性が担当	主に女性が担当し男性は手伝う程度	男女同じ程度	主に男性が担当し女性は手伝う程度	すべて男性が担当	該当する人がいない・該当する選択肢がない
①食事の支度・後片付け	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
②掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
③地域活動への参加	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
④乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑤子どもの教育	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑥高齢者や病人の介護	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑦生活費の確保	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6

問５　あなたは、男性が家事を行うことについて、どのようなイメージを持っていますか。（○は３つまで）

１．男性も家事を行うことは、当然である

２．家事を行う男性は仕事と家庭のバランスを取るのが上手である

３．男性自身も充実感や幸福感が得られる

４．子どもによい影響を与える

５．仕事と両立させることは現実的に難しい

６．家事は女性の方が向いている

７．周囲から変わった人と評価される

８．男性は、家事を行うべきではない

９．その他（　　）

問６　家庭の中での、炊事、洗濯、掃除などの家事を男女がともに担うために必要だと思うことは何ですか。（○は３つまで）

１．男性が家事を行うことへの男性自身の抵抗感をなくす
２．男性が家事を行うことへの女性の抵抗感をなくす
３．夫婦や家族で役割分担についてよく話し合う
４．年配者やまわりの人が、役割分担についての当事者の考え方を尊重する
５．労働時間短縮や休暇制度等の普及で、家庭に使える時間を増やす
６．講座等により、男女が対等に家事を担える技能を高める
７．男女がともに家事を行うのが当然であるという意識を普及・啓発する
８．機械化や社会サービスの導入により、一つ一つの家事の負担を軽減する
９．男女で家事を分担することを妨げるような社会通念が変わる
10．その他（　　）

問７　男性と女性がともに育児や介護に参加していくためには、どのようなことが重要になると思いますか。（○は３つまで）

１．男性が育児・介護休業制度を利用しやすくなる
２．労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などがすすむ
３．男性のための育児や介護の講座が充実する
４．男性自身が育児や介護に取り組む意識をもつ
５．女性（例：介護される当事者）が男性の介護を受け容れるような意識をもつ
６.保育や介護に関わる施設や社会サービスが充実し、保育・介護の家庭での負担が軽減される
７．夫婦や家族の間で育児や介護についてよく話し合う
８．男性が気軽に育児や介護の問題を相談できる窓口を設ける
９．育児や介護を男女で分担することを妨げるような社会通念が変わる
10．その他（　　）
11．わからない

問８　将来、自分の老後の介護が必要になったとき、主に誰に介護をしてもらいたいと思いますか。（○は１つ）

１．配偶者に介護してもらいたい　　２．娘に介護してもらいたい
３．娘の配偶者に介護してもらいたい　　４．息子に介護してもらいたい
５．息子の配偶者に介護してもらいたい　　６．その他の親族に介護してもらいたい
７．家族以外（友人・隣人等）に介護してもらいたい
８．在宅の介護保険サービスの利用　　９．病院・施設の利用　　10．その他

問９　自分が障害を負ったとき、主に誰に介護をしてもらいたいと思いますか。（○は１つ）

１．自分の親に介護してもらいたい　　２．配偶者に介護してもらいたい

３．自分の兄弟姉妹に介護してもらいたい　４．実子に介護してもらいたい

５．実子の配偶者に介護してもらいたい　６．その他の親族に介護してもらいたい

７．家族以外（友人・隣人等）に介護してもらいたい

８．在宅の障害福祉サービスの利用　　９．病院・施設の利用　　10．その他

問１０　安心して子どもを産み育てるために、町が行っている事業に関する充足度についてお聞かせください。（①から⑩でそれぞれ１つに○）

	充足している	不足している	どちらとも言えない	わからない
①児童手当などの養育費の補助	1	2	3	4
②乳幼児の医療費補助（子ども医療）	1	2	3	4
③保育施設の設置	1	2	3	4
④一時保育・延長保育・病児病後児保育（病気や病気の回復の途中で保育園へ通えない子どもを預かる事業）など保育制度	1	2	3	4
⑤育児サークルなど地域の仲間づくり組織	1	2	3	4
⑥放課後児童クラブなどの子育て支援	1	2	3	4
⑦ファミリーサポート事業	1	2	3	4
⑧出産・育児の心理的負担を軽くする講座や相談	1	2	3	4
⑨母子家庭・父子家庭の支援	1	2	3	4
⑩その他（　　）	1	2	3	4

問１１　以下の育児・介護に関して町が実施する教室や講座等を知っていますか。（①から⑥でそれぞれ１つに○）

	参加したことがある	参加したことはないが内容を知っている	聞いたことはある	知らない
①ぱぱままクラス	1	2	3	4
②乳幼児相談	1	2	3	4
③赤ちゃん教室	1	2	3	4
④子育て支援センター	1	2	3	4
⑤認知症サポーター養成講座	1	2	3	4
⑥高齢者徘徊捜索模擬訓練	1	2	3	4

３　仕事、働き方について

問１２　生活の中で「仕事」「家庭生活」「地域生活」の内、あなたが最も優先したいと思う形はどれですか。（○は１つ）

１．「仕事」　２．「家庭生活」　３．「地域生活」
４．「仕事」と「家庭生活」　５．「仕事」と「地域生活」
６．「家庭生活」と「地域生活」　７．「仕事」「家庭生活」「地域生活」全て
８．その他　９．わからない

問１３　男女ともに、仕事と家庭生活の調和を実現していくための雇用環境として、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）

１．仕事量・残業時間の減少
２．短時間勤務制度や時差出勤制度の導入
３．テレワーク※や在宅ワークなどの出社を必要としない働き方の導入
４．賃金改善・男女間格差の是正
５．再雇用制度の充実
６．パートや派遣社員の労働条件の改善
７．育児・介護休業制度の（事業者側の）運用
８．代行要員の確保など、育児・介護休業制度を利用できる職場環境
９．家事・育児・介護参加への職場・上司の理解
10．地域活動・学校行事参加への職場・上司の理解

※テレワーク…情報通信技術（ICT）を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方。

問１４　あなたは、女性が職業を持つことについて、どのように思いますか。（○は１つ）

１．結婚・出産にかかわらず、ずっと働き続ける方がよい
２．結婚するまでは、働く方がよい
３．子どもができるまでは、働く方がよい
４．子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい
５．働かない方がよい
６．その他（　　）
７．わからない

問１５　あなたが、いったん出産・育児・介護などで離職した場合、次にどのような働き方や生活がしたいですか。（○は１つ）

１．これまでの知識・経験・キャリアを生かすことを重視し、正社員として働く
２．仕事と家事・育児・介護などが両立できる環境で、正社員として働く
３．これまでの知識や経験を生かして、パート・アルバイトとして働く
４．働く時間や場所を重視して、パート・アルバイトとして働く
５．在宅ワークやテレワークなど出社を必要としない仕事で、家事・育児・介護等と両立する

６．ボランティアや地域活動で貢献する
７．起業や NPO を立ち上げて自ら仕事をつくる
８．仕事などは持たず家庭で家事に従事する
９．その他（　　）
10．わからない

問１６　結婚や出産、介護などで離職した人が、再び職業をもち、安心して働ける環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。　（○は３つまで）

１．再就職に関わる相談窓口・情報提供を充実する
２．働いていた職場への再雇用制度を充実する
３．給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する
４．職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する
５．労働時間を少なくする
６．勤務形態を柔軟にする（在宅勤務、時差出勤制度など）
７．休暇を取りやすくする（育児、介護など）
８．育児や介護による仕事への影響を理由として昇進を制限しないようにする
９．教育訓練機会を充実させ、能力の向上を図る
10．その他（　　）

問１７　管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。（○は３つまで）

１．やりがいのある仕事ができる
２．賃金があがる
３．能力が認められた結果である
４．家族から評価される
５．自分の能力・経験が活かせる
６．やるべき仕事が増え、身体的負担が増える
７．広域異動が増える
８．責任が重くなり、精神的負担が増える
９．仕事と家庭の両立が困難になる
10．その他（　　）
11．特にない

４　地域活動について

問１８　あなたは、どのような地域活動に参加していますか。（あてはまるものすべてに○）

１．自治会・町内会活動
２．女性団体活動
３．PTA 活動
４．子ども会・青少年活動
５．老人クラブ活動
６．ボランティア活動などの社会奉仕活動
７．消費者活動
８．文化活動（趣味・教養）
９．スポーツ・レクリエーション活動
10．子育て支援活動（グループ活動を含む）
11．その他
12．特に参加していない（→問１９へ）

問１９　問１８で「１２．特に参加していない」と答えた方のみにお聞きします。地域活動に参加していない主な理由は何ですか。（○は３つまで）

１．子どもの世話や家族の介護がある
２．仕事が忙しい
３．他の家族がやっている
４．配偶者や家族の理解がない
５．必要な能力がない
６．必要な情報が不足している
７．活動する仲間がいない
８．責任が重くなり、精神的負担が増える
９．人間関係がわずらわしい
10．興味や関心がない
11．その他（　　）

問２０　あなたが住んでいる地域では、地域活動の役割分担はどのようになっていますか。（①～⑥それぞれ１つに○）

	主として女性	どちらかといえば女性	男女同じ程度	主として男性	どちらかといえば男性	わからない
①地域役員や催しものの企画、決定	1	2	3	4	5	6
②集会などの運営、取仕切り	1	2	3	4	5	6
③集会などでのお茶くみ、調理	1	2	3	4	5	6
④祭りや葬儀の運営、取仕切り	1	2	3	4	5	6
⑤PTA や保護者会の運営、取仕切り	1	2	3	4	5	6
⑥その他（　　）	1	2	3	4	5	6

問２１　地域活動で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。（○は３つまで）

１．多様な視点が加わり、活動が魅力的になる
２．活動の担い手が増える
３．女性の声・ニーズが反映されやすくなる
４．口コミやネットワークにより、活動への参加が増える
５．子どもや家族への理解が促される
６．活動の中でのコミュニケーションが活発化する
７．女性の活躍の場が広がる
８．既存のやり方が踏襲できない
９．男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる
10．その他（　　）

問２２　自然災害が起きたとき、男女両方に配慮した避難所にするためにはどのようなことが必要だと考えますか。（あてはまるものすべてに○）

１．男女別の更衣室
２．授乳室
３．プライバシーを確保するための仕切り
４．安全で行きやすい場所の男女別トイレ
５．女性トイレ・女性専用スペースへの女性用品の常備
６．運営の責任者に男女両方がなること
７．男女両方の相談員による相談対応
８．その他（　　）

5　教育について

問２３　あなたは、男女が共に協力し合う社会を作るために、学校教育ではどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（○は３つまで）

１．生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を生かせるように配慮する
２．教科書などの、固定化された男女の役割や特性についての記述をなくす
３．異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる
４．男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける
５．男女ともに、法律・経済・科学技術などについて学習する時間を設ける
６．性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する
７．教員や保育者に男女共同参画の研修を推進する
８．管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく
９．出席簿の順番や持ち物の色など、男女を分ける慣習をなくす
10．学校行事・課外活動・生徒会等で、男女共に役割を担うように配慮する
11．その他（　　）
12．わからない

6　DV（ドメスティック・バイオレンス/配偶者等からの暴力）について

問２４　あなたは配偶者や交際相手から暴力を受けた経験がありますか。（○は１つ）

１．はい（→問２５へ）　　２．いいえ（→11 ページの問２９へ）

問２５　問２４で「はい」を選んだ方にお聞きします。それは誰からですか。（あてはまるものすべてに○）

１．配偶者　　２．交際相手　　３．その他

問２６　問２４で「はい」を選んだ方にお聞きします。その内容はどんなものでしたか。（あてはまるものすべてに○）

１．命の危険を感じるくらいの暴力
２．医師の治療が必要となる程度の暴力
３．いやがっているのに性的な行為を強要された
４．見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた
５．何を言っても無視され続けた
６．交友関係や電話を細かく監視された
７．大声でどなられたり、暴言を吐かれたりした
８．生活費をわたさないなど、経済的におさえつけられた
９．その他（　　）

問２７　問２４で「はい」を選んだ方にお聞きします。その時に誰かに相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

１．家族　　２．友人・知人
３．行政機関（愛知県女性相談センター、役場、保健センターなど）　　４．警察
５．民間の団体・機関（カウンセリングルーム、シェルター）
６．法務局・法テラス（弁護士）・人権擁護委員　　７．医療関係者
８．その他（　　）
９．誰にも相談しなかった（→問２８へ）

問２８　問２７で「９．誰にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。相談しなかった理由は何ですか。（○は１つ）

１．どこ（誰）に相談してよいのか分からなかったから
２．恥ずかしくて誰にも言えなかったから
３．相談しても解決できないと思ったから
４．相談した相手の言動により、かえって不快な思いをすると思ったから
５．自分さえ我慢すればよいと思ったから
６．他人を巻き込みたくなかったから
７．そのことについて思い出したくなかったから
８．自分にも悪いところがあると思ったから
９．相談するほどのことでもないと思ったから
10．その他（　　）

問２９　男女間の暴力を防止するために必要なことは何だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

１．家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える
２．学校・大学内で暴力を防止するための教育を行う
３．地域で暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
４．メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
５．被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
６．警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う
７．暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
８．加害者への罰則を強化する
９．暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を規制する
10．その他（　　）
11．わからない

７　ＬＧＢＴについて

問３０　現在の社会は、ＬＧＢＴ（または性的マイノリティ・性的少数者）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。（○は１つ）

１．そう思う（→問３１へ）
２．どちらかと言えばそう思う（→問３１へ）
３．どちらかと言えばそう思わない（→問３２へ）
４．思わない（→問３２へ）
５．わからない（→問３２へ）

※ＬＧＢＴの語句については、アンケート２ページ目に語句の説明がありますのでご参照ください。

問３１　問３０で「１．そう思う」「２．どちらかと言えばそう思う」と回答した方にお聞きします。性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。（○は２つまで）

１．行政が当事者についての理解を推進するための講演会などを行い周知・啓発する
２．相談窓口を設置する
３．生徒や町民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う
４．性的マイノリティの方々への差別解消への取組を条例等で制度化する
５．当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う
６．働きやすい職場環境づくりの取り組みをする
７．その他（　　）
８．わからない

８　あなたご自身のことについて

問３２　あなたの性別はどれですか。（○は１つ）

１．女性　　２．男性　　３．その他（　　）

※３．その他については性的マイノリティの方を考慮した選択肢です。この設問は、戸籍上の区分とは別にご自身の主観によりご記入ください。

問３３　あなたの年齢についてあてはまる番号はどれですか。（○は１つ）

１．１５～１９歳　　２．２０～２９歳　　３．３０～３９歳

４．４０～４９歳　　５．５０～５９歳　　６．６０～６９歳　　７．７０歳以上

問３４　あなたが同居されているご家族を全て選んでください。（あてはまるものすべてに○）

１．配偶者　　２．子ども（小学校入学前）　　３．子ども（小学生以上）

４．自分の親・祖父母　　５．配偶者の親・祖父母　　６．その他の親族

７．親族以外　　８．なし（一人世帯）

問３５　あなたの職業についてあてはまる番号はどれですか。　（○は１つ）

１．専業主婦・専業主夫　　２．正社員・正職員　　３．契約社員・派遣社員

４．パート・アルバイト　　５．自営業　　６．無職（年金受給者も含む）

７．学生　　８．その他

９　扶桑町の男女共同参画について

問３６　町では、「扶桑町男女共同参画プラン（平成 22 年～平成 31 年）」を策定して、男女共同参画を推進しています。このプランを知っていますか。（○は１つ）

１．内容を知っている　　２．聞いたことはある　　３．知らない

問３７「広報ふそう」では、男女共同参画に関するコラムを掲載していますが、知っていますか。（○は１つ）

１．読んだことがある　　２．知っているが、読んだことはない　　３．知らない

問３８　男女共同参画社会実現のために行政に望むことは何ですか。（○は３つまで）

１．男女平等を目指した法律・制度の見直しを行う

２．女性を政策決定の場に積極的に登用する

３．各種団体の女性リーダーを養成する

４．職場における男女の均等な取り扱いについて周知啓発を行う

５．女性の採用拡大や職域拡大を進める

６．男女がともに多様な働き方を選択できる環境を整備する

７．保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する
８．学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
９．女性の生き方に関する情報提供や交流・教育の場を充実する
10. 悩みや問題解決を助ける相談サービスを充実する
11. 各国の女性との交流や情報提供などの国際交流を推進する
12. 広報紙のパンフレットなどにより男女の平等と相互の理解や協力について PR する
13. その他（　　）
14. 特にない

問３９　男女共同参画プランでは、一人ひとりがお互いを認め、個性と能力を発揮し、いきいきと暮らすことができる社会の実現を目指しています。ご意見や必要と思われる取り組みがあれば、ご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。